

喫する文化を大事にしたい。湯気と煙のエトセトラ。

ピーコック

Magazine for HATTORI City Boys & Girls

2021 APRIL Issue.01



喫茶店とタバコ。

ピーコックマガジン 2021年4月 創刊号

発行：喫茶ピーコック 大阪府豊中市服部元町1-1-6 TEL:06-6864-0317



店主が綴る、エッセイのようなもの
くちびるに珈琲を。
the sun in mind; the coffee to lips.

「ひとりの時間を持つということ」

こないだ、ひとりでふらっと淡路島まで行ってきたんです。
バイクで明石海峡大橋を渡って。

旅の目的は「頭を整理すること」と「本を読むこと」。
海の見えるカフェで本を読み、山を眺める宿で自分と向き合う。
店のことや現況、将来のことをノートにまとめていく。

夜なんて本当に静かで、

集中の切れ間にふと顔を上げると

「あれ、ここはどこだっけ？」と見失う始末。

本もたくさん読めたし、おかげでずいぶん捗りました。

店をやっていると日々に根付いてしまって、

あらためて自分を確かめることを疎かにしてしまう。

自分が何を考えていてどこに向かっているのか、

わかっているようで実は曖昧。

そんなこともあり、年に数回は気が向いた時に旅をします。

観光やレジャーではなく「自分に籠る」ため。

スマホで世界と繋がったぶん、

自分との繋がりが薄くなった気がする。

自分と話す時間、大切にしたいですね。

僕の好きな

言葉

くちびるに歌を持って、
勇気を失うな、心に太陽を持って (原詩「心に太陽を持って」から抜粋)

ツェーザル・フライシュレン

📖 今月の一冊

自然のレッスン

北山 耕平

「スローライフ」という言葉が世に出た20年くらい前に出会った本。ネイティブアメリカンの知恵をベースに詩的にまとめられています。あれから時代はずいぶん変わったけれど、心も体も食べ物も「自然であること」が大前提なのだと思う。複雑な時代に寄り添う、シンプルでまっすぐな文章が身に染みる。バラバラと気になるページを捲るだけでもぜひ。



本と音とお店のはなし。

🎧 今月の一曲

終わらない歌

THE BLUE HEARTS

17歳の時に初めてギターで弾けた曲。バンドスコアを見ながら何度も何度も練習しました。歪んだギターとドンドン響くバスドラムのイントロを聴くと、僕は一瞬で青春に戻ってしまう。リングリングも人にやさしくも大好きだけれど、マイクに向かって「クソツラレの世界のため」って何万回も叫んだこの曲はやっぱり「若かりしあの頃」の思い出なんです。



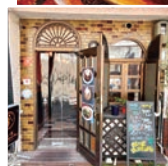
🏠 僕らの町のお店

カレー屋 グランドセントラル

豊中市庄内幸町3-3-39

【営業日時】水～土11:30～14:00 17:30～22:00

【価格】スパイスカレー¥700～



↑3種合いがけカレー ¥1,100

庄内WESTからさらに西へ入った「WEST END」「庄内幸町」に佇む、旅するカレー屋。20か国を旅したマスターが作るスパイスカレーと欧風カレーはあいがいがおすすめ。

店の壁に堂々と描かれた「See, Life is not so bad. (ほらね、世の中そんなに悪くない)」を地で行くグラセンは人生を旅するみんなのトランジット。

上芝英司 | 1979年服部生まれ、喫茶ピーコック3代目店主。喫茶と文章に動しむA型乙女座ヒゲメガネ。企画や作文、図画工作が得意。

PEACOCK64



<https://peacock64.com>

PEACOCK64 豊中



for HATTORI City Boys & Girls

喫茶店とタバコ



「お兄ちゃん、8ミリひとつねえ。」「はい、伝票につけときます。」
僕が店に入った当時(17年前)、こんな会話は当たり前でした。
お客さんのことも「セーラムのおばちゃん」とか「ゴールデンバットのおじさん」とか、特徴のある銘柄を吸っている人はすぐに覚えちゃって。朝なんて「コー

ヒータバコ・スポーツ新聞」を3種の神器ばりに装備したおじさんが集い、野球談議に花が咲き。どれだけ換気扇を回しても視界が霞むくらいに煙が上がるもんだから、僕らは「朝露」なんて言っていました(笑)。
それから「タスポ」ができて、少しずつ世間の風向きが変わってきました。当時「タスポ貸しておじさん」が出現しましたが、「ゴールデンバットのおじさん」には敵いません。「ゴールデンバットのおじさん」には大人の色気と哀愁、人生の苦楽や物語があります。ところがどっこい、「タスポ貸しておじさん」はカードを作るのが面倒じゃまくさがりです。
背負ってきた人生や若い頃の過ち、振った数も振られた数も全然違うんです。そんな時代の流れからタバコを店に置くことを辞め

ただけど、それと重なるように東京オリンピックや大阪万博が決まって、国策としても「禁煙」が取り上げられるようになりました。「OOS」などの電子タバコも出てきましたが、やっぱり「ゴールデンバットのおじさん」には敵いません。ゴールデンバットは初めて吸うタバコじゃないんです。紆余曲折あったし悔しい思いもしたでしょう。母親に迷惑もかけたし故郷の仲間には皆落ち着いている。「ああ、俺はダメだなあ…」なんて吐き出す、溜め息交じりの煙と辺りに漂う甘い香り。そう、あの煙にはニコチンやタールの他にも「男の浪漫」が詰まっていたんです。
その当時はわからなかったけれど、それなりに生きてきた今は何となくわかる

「喫茶店とタバコには人生模様があるよなあ」なんてここまで熱く語ってきた僕ですが、実は40年の人生で一度もタバコを口にしたことありません。肺なんて真っ白で酸素もパンパン取り込むし、歯も丈夫で歯医者知らずだし、口笛もめっちゃうまいです(笑)。
今でももう喫茶ピーコックは内も外も禁煙だし服部天神駅前の路上も喫煙禁止区域になるけれど、でもやっぱり「喫する」文化というのは深いなと思うんです。
コーヒーもコンビニやウーバーで買えるし、「喫茶店のコーヒー」には浪漫や物語を一緒に淹れていく時代かもしれないですね。
ピーコックの濃いコーヒーから漂う湯気と香り、喉を通る苦味はその夜の涙を思い出す、なんてね。